

## 石炭の価格推移と需給動向（2025年2月）

石炭開発部企画課 大竹正巳

### 価格推移（2月）

- ・ 高品位一般炭 CIF 欧州：欧州エネルギー価格急落の影響で月初の約110\$/トンから中旬に100\$/トン割れ、97~99\$/トンのレンジ相場の後、穏やかな天候による石炭需要抑制で91\$/トン台まで低下。
- ・ 高品位一般炭 FOB 豪州：アジア市場の輸入需要低迷を背景にスポット取引に乏しく月初の113\$/トン台から中旬に102\$/トン近くまで続落、暫く横ばいで推移するも月末に再び下落し100\$/トン割れ。
- ・ 強粘結炭 FOB 豪州：中国春節明けの需要押し上げ期待と購買意欲向上により初旬の185\$/トン台から強含み、中旬には190\$/トン近くまで上昇。その後やや弱含み188\$/トン前後の横ばいで推移。

### 需給動向（一般炭）

- ・ 豪州の一般炭最大の輸出港であるNSW州Newcastle港の1月の石炭出荷量は前年同月比▲20.3%の1,031万トンに減少。需要低迷に加え悪天候による出荷遅延も影響し2023年1月以来の低水準。
- ・ 中国の1~2月の石炭輸入量（速報値）は7,612万トンで、高水準の在庫を背景に前年同月比+2.1%と低い伸び率に。中国国内の石炭価格は下落傾向で、輸入石炭の競争力が低下。
- ・ 日本の1月の一般炭輸入量は前年同月比+4.3%の1,037万トン、平年と概ね同水準の1千万トン台を維持。瀝青炭の平均輸入単価は約2.4万円/トンで、前年より1千円程度の値下がり。
- ・ インドの2月の国内炭生産量は前年同月比+1.7%の9,826万トン、民間企業による生産量が15.3%増加。石炭火力発電は前年同月比+2.1%の106TWh、前年を上回るも水力・原子力より低い伸び。

### 需給動向（原料炭）

- ・ 豪州QLD州主要4港の2月の石炭出荷量は前年同月比▲35.5%の1,042万トンに大幅縮小。長期化する鉄鋼需要の低迷および悪天候によるスループット量低下が影響。
- ・ 中国の主要鉄鋼メーカーによる2月の平均粗鋼日産量は前年同月比+3.6%の218万トン、5か月連続で前年実績を上回る。全人代では、過剰生産を抑制させる狙いから減産を進める方針を表明。
- ・ 日本の1月の原料炭輸入量は前年同月比▲7.5%の472万トン、鉄鋼需要低迷を背景に単月では過去10年間で最低水準。粗鋼生産量は前年同月比▲6.6%の679万トンで、11か月連続の前年割れ。
- ・ 世界の1月の粗鋼生産量は前年同月比▲4.4%の1億5,140万トン。中国での減産（前年同月比▲5.6%の8,190万トン）が影響し4か月ぶりのマイナス伸び率。インドは+6.8%の1,360万トン。

## 一般炭の価格推移

一般炭価格は、2022 年前半にはロシアへの制裁国（EU 諸国、日本等）がロシアからの石炭輸入を停止することによる他ソースへの代替需要の発生、および欧州における天然ガス代替としての石炭需要の増加により、極端な高値に急騰した。2022 年 9 月になると、制裁に参加しない主要石炭輸入国（中国、インド、トルコ等）が、国際市況から大幅にディスカウントされたロシア炭を積極的に輸入し、それらの国々が従来輸入していた南アフリカ、コロンビア、米国等の一般炭が欧州に供給される「再バランス化」が進展したことにより、これまでの極端なタイト感が薄れて一般炭価格は低下傾向となった。

### ➤高品位一般炭 CIF 欧州

欧州の一般炭需要は、2021 年～2022 年に天然ガスの供給ひっ迫により増加したが（2022 年 3 月～8 月に 400\$/トン超）、2023 年 1 月からは 200\$/トンを下回り減少に転じている。およそ過去一年間の高品位一般炭 CIF 欧州価格は概ね 100～120\$/トンの範囲で推移する中、ロシア石炭企業の制裁対象への追加、中東情勢の緊迫化、米国 Baltimore 港の橋崩落事故、ロシアとウクライナの軍事衝突等により短期的に上昇する局面が見られた。とりわけ、8 月初旬のガス輸送ルートに近いロシア西部へのウクライナ軍の越境攻撃により欧州における天然ガス供給ひっ迫懸念が高まったことで、8 月は 120\$/トンを超える展開となり、中旬には 2023 年 12 月以来の高値となる 127\$/トン近くまで上昇した。さらに 11 月に入ってから中央ヨーロッパ諸国向けロシア産天然ガスのパイプライン供給停止懸念が再燃し、欧州電力市場における天然ガス価格が急騰した影響を受けて 8 月以来の 125\$/トンを超えとなる場面も見られたが、電力卸価格の軟化を背景に下落基調となった。

2 月の市況を振り返ると、上旬は寒波による気温低下や再エネ発電の出力低下により石炭需要が一定程度維持されていた中、米国・ロシア両大統領によるウクライナ和平交渉開始、および欧州諸国による欧州委員会へのガス貯蔵目標の引き下げ要請の発表を受けて欧州電力市場全体のエネルギー価格が急落した影響で、月初の約 110\$/トンから中旬には 10\$/トン以上下落し、市場での心理的底値と見られていた 100\$/トンの水準をおよそ 1 年振りに下回った。アジア市場での一般炭市況が大幅に軟化したことも下方圧力になったとみられる。その後しばらくは、ウクライナ和平交渉について楽観的見通しが薄れたことによる LNG 価格上昇の押し上げ要因と、比較的温暖な天候と旺盛な再エネ出力による下押し要因が交錯し、97～99\$/トンのレンジで揉み合う展開で推移し、下旬は比較的穏やかな天候により欧州電力市場全体でエネルギー需要が抑制されたことで再び下落基調となり、月末には約 91\$/トンまで低下した。

欧州の主要供給元であるコロンビアでは、Cerrejon 炭鉱と Bolivar 港を結ぶ Cerrejon 鉄道が 12 月～1 月にかけて複数回の爆破や妨害活動の影響を受けて石炭輸送が一時的に停止する事態に陥っていたが、2 月上旬に線路の修復が完了し鉄道運行が再開され、市況に与える大きな影響は無かった模様。

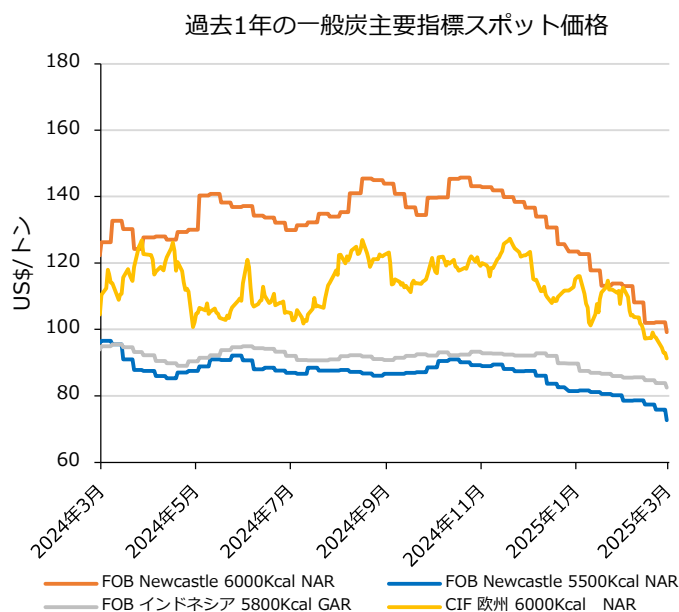
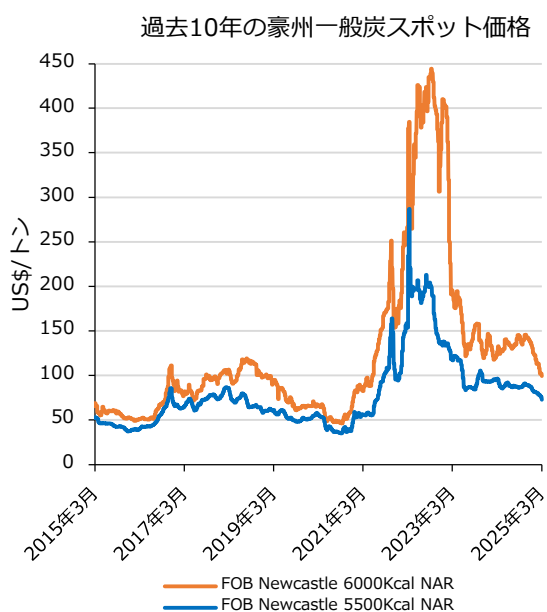
### ➤高品位一般炭 FOB 豪州

豪州産高品位炭価格は、CIF 欧州価格の高騰から 2 か月遅れの 2022 年 5 月～10 月にかけて一時 400\$/トンを超えたが、CIF 欧州価格の下落後も、他の銘柄と比べ大幅に高値の状態が続いていた。その後 2023 年 1 月頃より値下げ基調に入ってから、夏期の電力需要増や天然ガス価格の上昇による変動はあるものの、CIF 欧州よりも概ね 20～30\$/トン程度割高の 120～150\$/トン台で推移した。2024 年は、アジア市場の需要低迷により 5 月初旬の 140\$/トン台から緩やかに下落基調が続いていた中、夏期の冷房向け電力消費量の高まりにより石炭火力の需要が増加したことで 7 月初旬の 130\$/トンから値上げ局面

に入り、地政学的リスクによる欧州やアジアでの天然ガス価格の上昇も影響し8月中旬には前年12月以来の145\$/トンを超えとなった。その後、世界的なエネルギー市況の軟化を背景に9月下旬まで5週連続の下落基調で134\$/トン台まで低下したが、10月に入ってからは暖房需要に備えた電力会社の在庫補充の動きから再び145\$/トン台に上昇した。10月下旬以降は、天然ガス市況の軟化を背景に需給が緩和されたことで小幅な下落傾向が続き、11月は136~142\$/トン台、12月は123~136\$/トン台、1月は113~122\$/トン台と徐々に低下している。

2月も引き続き日本、韓国、台湾などのアジア市場での輸入需要低迷を背景にスポット取引は乏しく、月初の113\$/トン台から中旬には102\$/トン近くまで続落した。その後しばらくはほぼ横ばいで推移したが、月末に再び下落し2021年5月以来となる100\$/トン割れとなった。日本においては季節的に電力需要は堅調であるものの、原子力発電の安定運転によって石炭燃焼量が抑制されたことや、LNGの高水準在庫により天然ガス市況が軟化したことも下押し要因になったと推測される。

高品位一般炭の輸入需要が振るわないことに加えて、これまで一般炭のアジア市場全体を下支えしてきた中国およびインドの国内需給が大幅に緩和し、余剰傾向の一般炭の受け入れ先がなくなっていることが、最近の価格下落の構造的背景と考えられる。



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>) のデータを基に作成

### ➤低品位一般炭 FOB 豪州

中国の旺盛な需要が下支えしているアジア向け一般炭は、今年3月下旬より気温上昇や景気減速等により、中国国内の需給が一時緩和したことでスポット価格が低下したが、5月に入り夏季の需要期に向けた在庫積み増しの動きが始まったことで強含みに転じた。その後、低品位(5,500kcal/kg)炭 FOB 豪州スポット価格は需要低迷を背景に5月下旬の92\$/トン台から緩やかな下落基調が続いていたが、7月上旬に高品位(6,000kcal/kg)炭と同様に緩やかな上昇に転じ、その後は86~88\$/トンのレンジでの小幅な値動きとなった。10月上旬から中旬にかけては90\$/トンをやや上回る高値をつけていたが、高品位一般炭の動きと調和して小幅な下落基調に転じ、11月は概ね88~89\$/トン台、12月は82~86\$/トン

台、1月は80~81\$/トン台と弱含みで推移した。

2月に入ってから下落傾向が続いた結果、月初の78\$/トン台から月末の72\$/トン台まで低下し、2021年6月以来の水準となった。中国、インド、東南アジアでの低品位炭の国内需要は旺盛であるが、中国、インド、インドネシアにおける増産によって需給緩和が顕著となっている。

## 一般炭の需給動向

### 豪州

- ・一般炭最大の輸出港である NSW 州 Newcastle 港の1月の石炭出荷量は前年同月比▲20.3%の1,031万トンとなり、中国が豪州炭の輸入を停止していた2023年1月以来の低水準に落ち込んだ。アジア市場においては季節的に電力需要は堅調であるものの石炭輸入需要が伸び悩んでいる中、1月下旬に約1週間にわたって暴風雨により石炭出荷に遅延が生じたこと、月末から春節休暇に入った中国の需要減少などが影響した。

### インドネシア

- ・エネルギー鉱物資源省は3月1日付けで、国際市場での自国炭競争力を強化する狙いから、石炭輸出業者に半月に一度改定される石炭指標価格（HBA）の使用を義務化した。これに対して、中国の一部のバイヤーからは HBA が市場価格と比べて割高であるとの指摘が上がったことで、スポット取引が停滞している模様。今後の新規契約を見送る懸念も出ている。

### 中国

- ・海関総署が発表した1~2月の石炭輸入量（速報値）は前年同月比+2.1%の7,612万トンと増加したが、港湾在庫が高水準にあることを背景に低い伸び率にとどまった。
- ・港湾在庫の増加および3月からのショルダーシーズンに需要が減少するとの見通しにより、中国国内の石炭価格は下落傾向で、輸入石炭の競争力が低下している。3月7日の一般炭スポット価格（5,500kcal/kg 炭 FOB 渤海湾）は、前週末から19元/トン値下がりし、2021年3月以来の700元/トン割れとなった。また、秦皇島港の石炭在庫量は749万トンと2018年以降で最高となっている。エネルギー大手の中国神華は2月21日、輸入制限措置として4月からの輸入炭の購入を停止すると発表した。

### インド

- ・インド商工省貿易統計による12月の一般炭輸入量は前年同月比▲33.9%の1,163万トンと、国内炭の増産を背景に前月に引き続き大幅減少した。内訳は、電力向けが前年同月比▲40.1%の325万トン、その他産業向けが同▲31.1%の838万トン。このうち電力向け一般炭輸入量は、インド中央電力庁の発表によると、公営電力（中央政府および州政府）が前月比▲32.6%の21万トン、IPP（独立系民間発電事業者）が同▲18.9%の304万トン。インド電力省は電力需要の増大を見込み、IPPに対して輸入炭専焼石炭火力発電所のフル稼働義務の期限を2月28日まで延長要請していたが、気温が上昇する夏期の電力消費拡大を見込んで、さらに2か月間延長の指示を出している。
- ・2月末時点の発電所向け石炭在庫は、前月末から約416万トン増の5,459万トンとなり、在庫維持日数（在庫量÷一日当りの消費量）は約19日に延びた。国内石炭生産量の増加によって、例年電力消

費量が増え始める 3 月を前に前年同月比+22%の高水準の在庫量となった。

- ・ 石炭省が発表した 2 月の国内炭生産量は、前年同月比+1.7%の 9,826 万トンと需給緩和を背景に低い伸びとなった。内訳は、自社向けを中心とした民間企業による生産量が前年同月比+15.3%の 1,777 万トンと増加したが、CIL は同▲0.8%の 7,413 万トン、SCCL は同▲0.9%の 636 万トンと減少した。
- ・ インド中央電力庁の発表による 2 月の総発電量は、前年同月比+6.2%、前月比▲1.5%の 145TWh となった。季節要因により前月を下回ったが、2 月単月としては平年よりも高い水準を記録した。石炭火力発電についても前年同月比+2.1%の 106 TWh と前年実績を上回る発電量となったが、水力（前年同月比+17.1%）や原子力（同+20.2%）と比べて低い伸び率にとどまった。
- ・ インド気象局（IMD）は、同国の夏期にあたる 3～5 月の気温が、南部の一部の州を除き平年より高くなる予報を出している。2 月に既に異常な高温が発生している地域があることから夏の早期発生と熱波が長引く懸念があり、平年よりも石炭需要が高まることが予想される。

## 韓国

- ・ 韓国の貿易統計によると、1 月の一般炭輸入量は前年同月比▲5.2%、前月比▲3.0%の 690 万トンに減少した。主な調達先は、インドネシア 263 万トン（前月比▲10.3%）、豪州 137 万トン（同+64.1%）、ロシア 97 万トン（同▲32.1%）、南ア 81 万トン（同▲21.7%）、およびコロンビア 61 万トン（同+92.6%）の順。世界的に一般炭市況が軟化している中で、豪州とコロンビアからの輸入量が増加し、ロシアや南アはこれまでのコスト競争力の優位性が薄れたことで減少した。

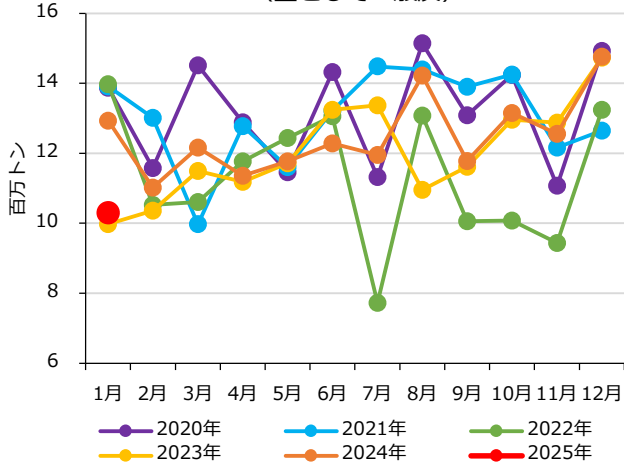
## 日本

- ・ 財務省貿易統計による 1 月の一般炭輸入量は前年同月比+4.3%の 1,037 万トンとなり、平年と比べて概ね同水準の 1 千万トン台を維持した。
- ・ 一般炭（瀝青炭）の 1 トン当たりの平均輸入単価は、ピーク時の 2022 年 11 月の約 6 万円から徐々に値下がりする中、前年同月より 1 千円程度低下し約 2 万 4 千円となった。

## EU

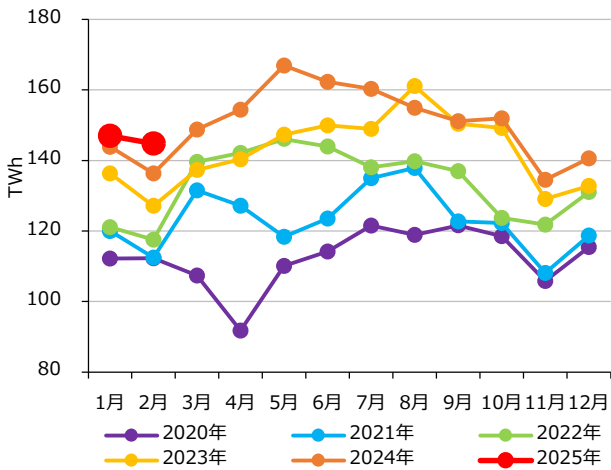
- ・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）の発表によると、2024 暦年での EU 域外からの一般炭輸入量は前年比▲35.4%の 3,395 万トンで、前年の▲31.4%に続く 2 年連続の大幅減少となった。欧州における脱炭素化の潮流の中で、再エネ発電の拡大、石炭火力発電所の段階的廃止が着実に進んでいることが示唆される。主な輸入元は、コロンビア 872 万トン（構成比 25.7%）、豪州 777 万トン（同 22.9%）、米国 522 万トン（同 15.4%）、カザフスタン 483 万トン（同 14.2%）、南ア 398 万トン（同 11.7%）の順。多くの生産国からの輸入量が軒並み減少する中で、豪州およびカナダは前年比で+26.1%および+98.9%と増加した。
- ・ 2024 年一年間の月別輸入量の推移を振り返ると、前半は前年から引き続き減少傾向となり 3 月～7 月は 200 万トン前後の低い水準で推移したが、8 月以降は中東情勢の緊迫化やロシア・ウクライナ軍事衝突等の地政学的リスクに起因した天然ガス供給ひっ迫懸念、また欧州電力市場における石炭の発電マージンが天然ガスよりも優位であることを背景に石炭燃焼量が拡大し、輸入量は増加傾向となった。

豪州Newcastle港の石炭船積量  
(主として一般炭)



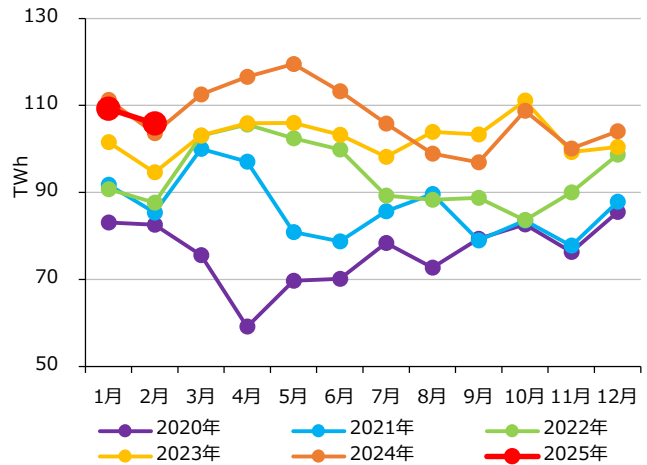
出所：Newcastle 港の月次貿易報告

インドの総発電量



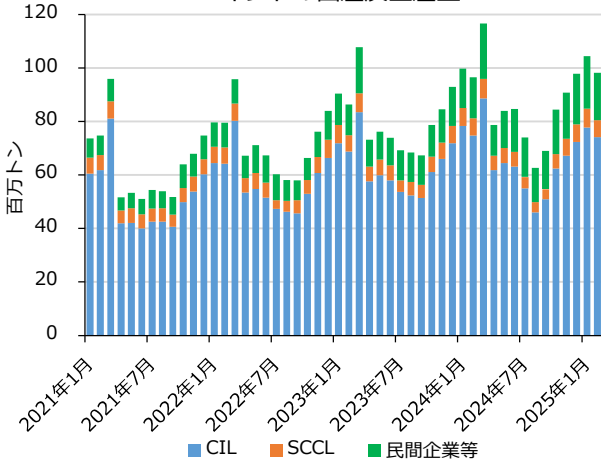
出所：インド中央電力庁

インドの石炭火力発電量



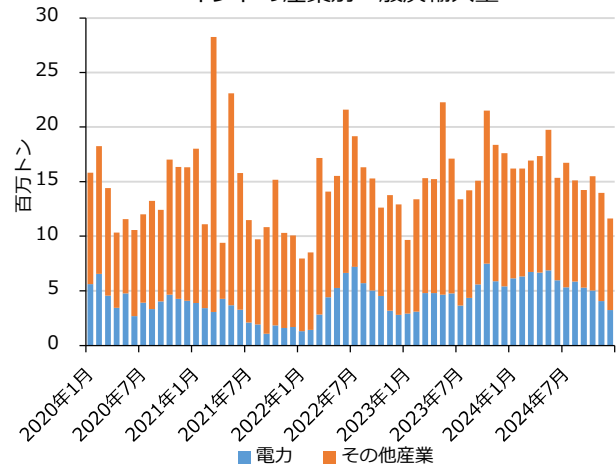
出所：インド中央電力庁

インドの国産炭生産量



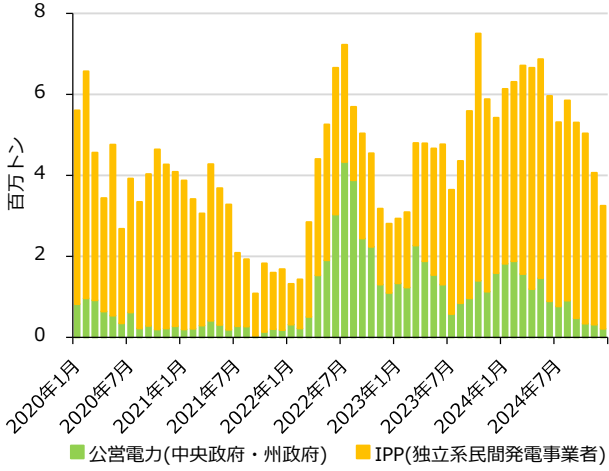
出所：インド石炭省

インドの産業別一般炭輸入量



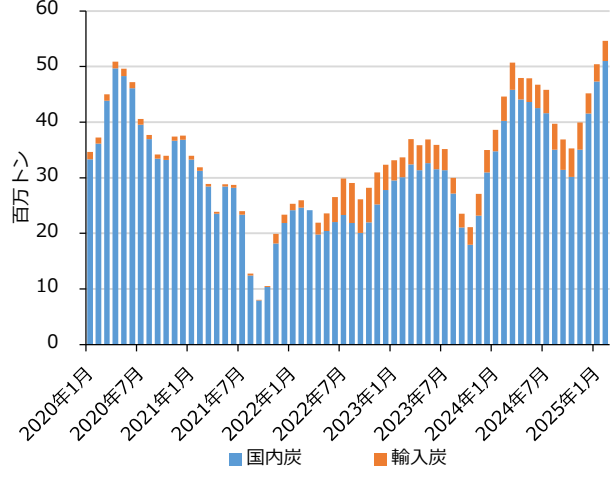
出所：インド商工省貿易統計、インド中央電力庁

インド電力会社の石炭輸入量



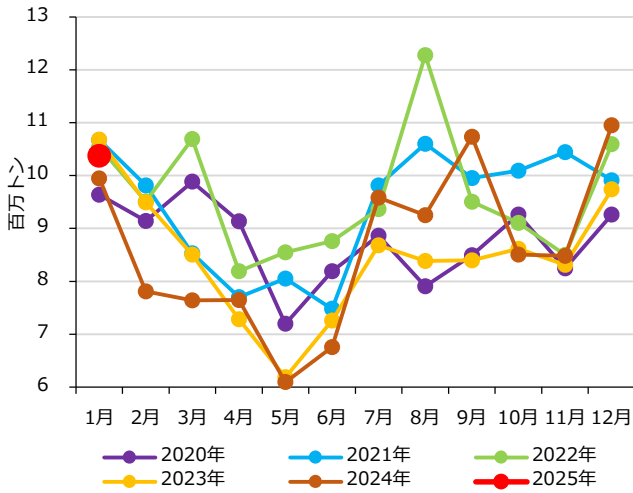
出所：インド中央電力庁

インド発電所の石炭在庫



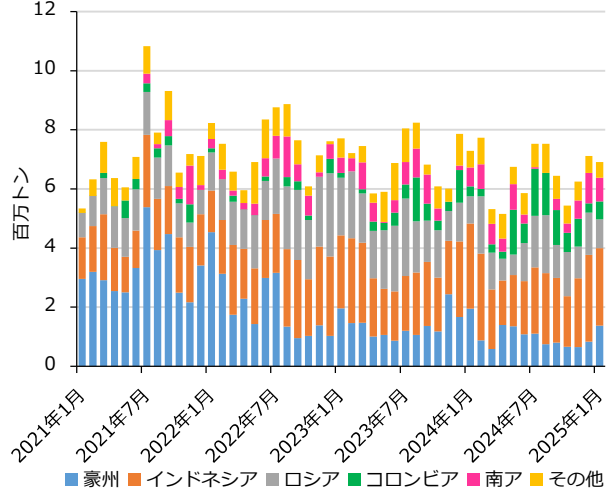
出所：インド中央電力庁

日本の一般炭輸入量



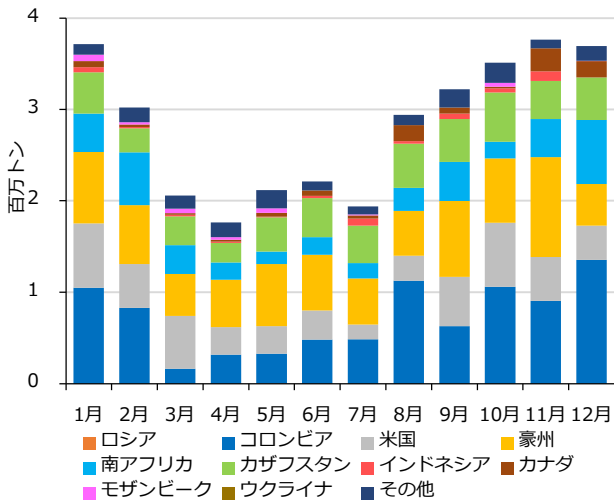
出所：財務省貿易統計

韓国の国別一般炭輸入量



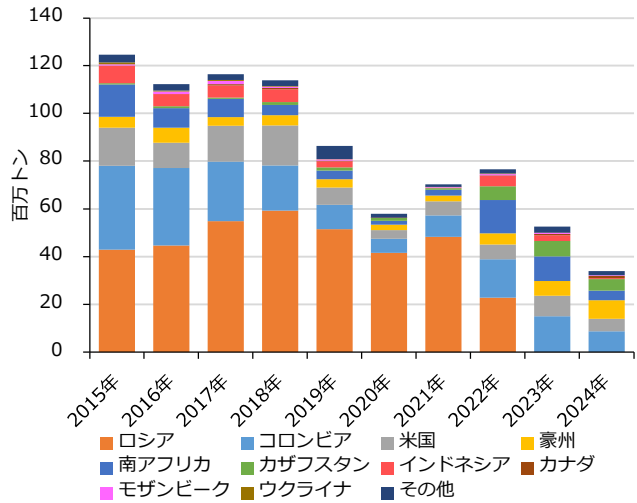
出所：韓国貿易統計

EUの一般炭輸入量(2024年の月別推移)



出所：欧州連合統計局

EUの一般炭輸入量(年別)



出所：欧州連合統計局

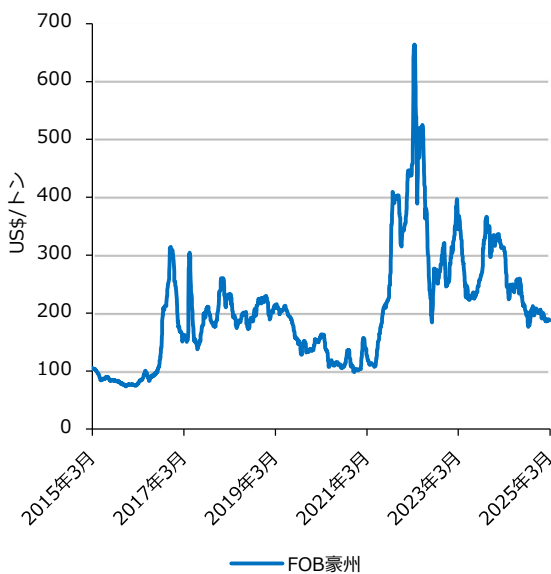
## 原料炭の価格推移

強粘結炭 FOB 豪州価格は、2021 年に入りコロナ禍から経済活動が再開され鉄鋼需要が増加する中、豪州での雨期の悪天候やコロナウイルスの影響による労働力不足に起因する生産・輸送の停滞により高騰し、加えてロシアによるウクライナ侵攻により、ロシア炭の他ソース代替への動きは一般炭程強くないものの、心理的影響もあって一時的に 600\$/トンを超えた。その後、産炭国の天候回復および鉄鋼需要の低迷により急落し、2022 年 8 月には約 200\$/トンまで値下がりました。2022 年 12 月以降は、中国のゼロコロナ政策の撤廃による鉄鋼需要増加の期待、豪州 QLD 州北部の天候悪化、QLD 州の石炭輸送鉄道の事故等の影響により値上がりし、2023 年 2 月下旬には 400\$/トン近くまで上昇したが、豪州における天候回復や鋼材需要低迷の長期化から値下がりに転じた。その後、インドの好景気に牽引されて原料炭需給はタイト化し、2023 年 10 月には 360\$/トンを超える局面も見られたが、世界的な鉄鋼需要の低迷を背景に下落基調となり、2024 年 8~9 月には 200\$/トンを割り込んだ。9 月下旬の中国による景気刺激策発表により一時的に上昇する局面もあったが実需は低調で市況の浮揚力に欠いたことから、その後は横ばい~弱含み、12 月下旬以降は再び概ね 200\$/トンを下回る水準で推移した。

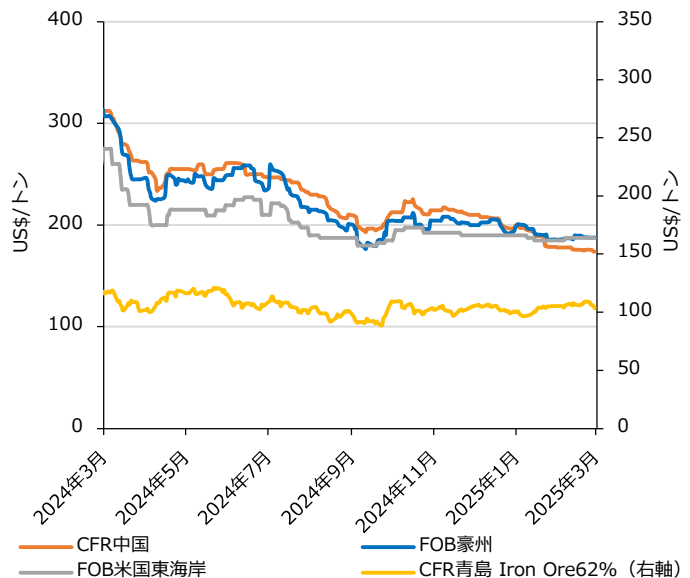
強粘結炭 FOB 豪州スポット価格の 2 月の動きを振り返ると、中国の春節休暇明けからの堅調な粗鋼生産を背景とした需要押し上げへの期待感により初旬の 185\$/トン台から強含む展開となり、さらに強気の市場心理に後押しされ購買意欲が上向いたことで中旬には 190\$/トン近くまで上昇した。その後、中国では供給過剰と需要低迷で在庫が積み上がる中で国内原料炭の市況が軟化し、インドにおいても買い意欲が限定的なことから弱含み、月末には約 188\$/トンまで低下した。

QLD 州 Abbot Point 港、Hay Point 港および Dalrymple Bay 港では、2 月上旬に悪天候によりスループット量が低下したために出荷遅れが続いたが、需要が低調なために市況に与える影響は限定的であったと見られる。

過去10年の豪州強粘結炭スポット価格



過去1年の強粘結炭指標スポット価格



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>) のデータを基に作成



## 原料炭の需給動向

### 豪州

- ・ QLD 州主要 4 港（Abbot Point、Hay Point、Dalrymple Bay、Gladstone）の 1 月の石炭船積量は、前年同月比▲2.3%の 1,432 万トンに減少した。アジア市場での鉄鋼需要の低迷に加えて、東海岸で発生した暴風雨により複数の港湾で交通網が寸断し、石炭積出に支障が出たことが影響した。このうち Gladstone 港の石炭船積量は、前年同月比▲3.2%の 490 万トンに縮小した。アジア向けでは、インドおよび韓国が前年同月比でそれぞれ+16.5%および+119.0 と増加した一方で、中国および日本はそれぞれ▲33.8%および▲27.6%と減少した。中国の減少については、1 月末から春節休暇に入ったことによる影響が大きい。
- ・ QLD 州主要 4 港の 2 月の石炭船積量は前年同月比▲35.5%の 1,042 万トンとなり、サイクロン上陸により輸送施設に甚大な被害が出た 2017 年 4 月の 750 万トンに次ぐ、過去 10 年で 2 番目の低水準となった。長期化する鉄鋼需要の低迷および 2 月上旬の悪天候により、Gladstone 港を除く 3 港でスループット量が低下したことが影響した。Gladstone 港は悪天候の直接の影響は受けていないが、前年同月比▲20.0%の 403 万トンに大幅縮小し、過去 5 年間では Blackwater 線脱線事故の影響で激減した 2023 年 2 月に次ぐ低い水準となった。国別輸出量は、日本 103 万トン（前年同月比▲18.7%）、インド 60 万トン（同▲45.0%）、中国 47 万トン（同▲33.3%）などで、鉄鋼需要低迷に加えて一般炭輸入需要の伸び悩みにより主要アジア市場向けが大幅に減少した。

### 粗鋼生産

- ・ 世界鉄鋼協会のまとめによると、1 月の世界の粗鋼生産量は前年同月比▲4.4%の 1 億 5,140 万トンに減少した。月末から春節休暇に入った中国での減産（前年同月比▲5.6%の 8,190 万トン）が大きく影響し、4 か月ぶりのマイナス伸び率となった。一日当たりの生産量は 488 万トンで、前月から 4.8%増加した。
- ・ 1 月のインドの粗鋼生産量は前年同月比+6.8%の 1,360 万トンとなり、過去最高を記録した前月に引き続き高水準を維持した。一日当たりの生産量についても 44 万トンで過去最高水準。
- ・ 主要鉄鋼生産国のなかでインド以外に前年実績を上回ったのは米国（前年同月比+1.2%の 660 万トン）のみで、日本 680 万トン（同▲6.6%）、ロシア 600 万トン（同▲0.6%）、韓国 520 万トン（同▲8.8%）、トルコ 320 万トン（同▲1.4%）、ドイツ 280 万トン（同▲8.8%）、ブラジル 260 万トン（同▲4.5%）など、軒並み縮小傾向となった。

### 中国

- ・ 3 月 5 日に開幕した全人代（全国人民代表大会）において 2025 年の経済成長率 5%前後の目標が示された中、鉄鋼産業に関しては貿易摩擦の要因になっている過剰生産を抑制させる狙いから減産を進める方針が表明された。但し、具体的な減産目標数量についての言及はなかった。
- ・ 海関総署が発表した 1~2 月の鋼材輸出量は前年同期比+6.7%の 1,697 万トンに増加したが、これまで続いていた二桁台の高い伸びは減速したと見られる。中国鋼鉄工業協会が発表した主要鉄鋼メーカーによる 2 月の平均粗鋼日産量は前年同月比+3.6%の 218 万トンで、5 か月連続で前年実績を上回ったが、政府が減産方針を示したことで今後は伸び率が鈍化すると推測される。

## 日本

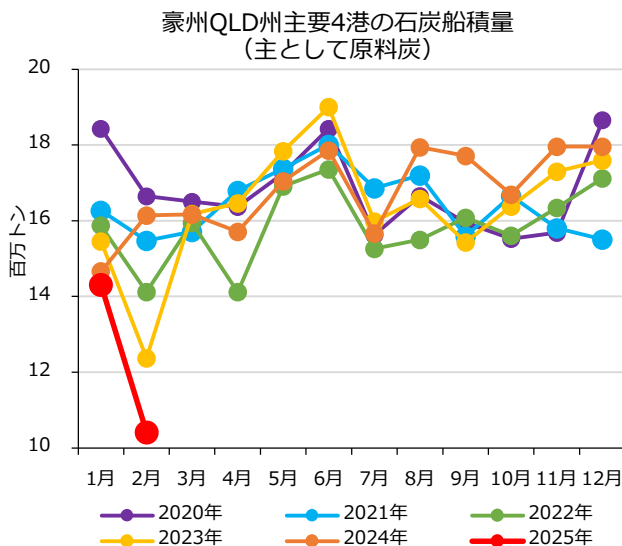
- ・ 財務省貿易統計によると、1月の原料炭輸入量は前年同月比▲7.5%の472万トンに減少し、鉄鋼需要の低迷を反映して1月単月としては過去10年間で最も低い水準となった。
- ・ 1月の強粘結炭1トン当たりの平均輸入価格は約3万3千円となり、2024年3月の約4万8千円から9か月連続で下落傾向を示した。
- ・ 日本鉄鋼連盟が発表した日本の1月の粗鋼生産量は前年同月比▲6.6%、前月比▲1.7%の679万トン（内、転炉鋼は515万トン）で、長期化する国内鋼材需要の低迷を背景に11か月連続の前年割れとなった。一日当たりの生産量は21.9万トンで、前月より1.7%減少した。

## インド

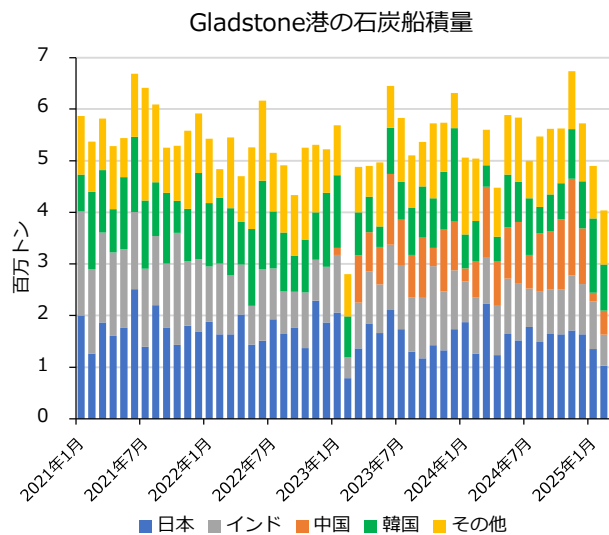
- ・ インド商工省貿易統計による12月の原料炭輸入量は、鉄鋼需要の低迷を背景に前年同月比▲25.5%の354万トンに大幅減少した。豪州（142万トン）および米国（50万トン）がそれぞれ前月比▲38.1%および▲35.2%と激減したのに対して、ロシア（56万トン）は44.7%増加となった。世界的に原料炭価格が軟化している中で、12月の平均輸入価格は豪州炭および米国炭が230\$/トン台に対して、ロシア炭は160\$/トン台であった。

## EU

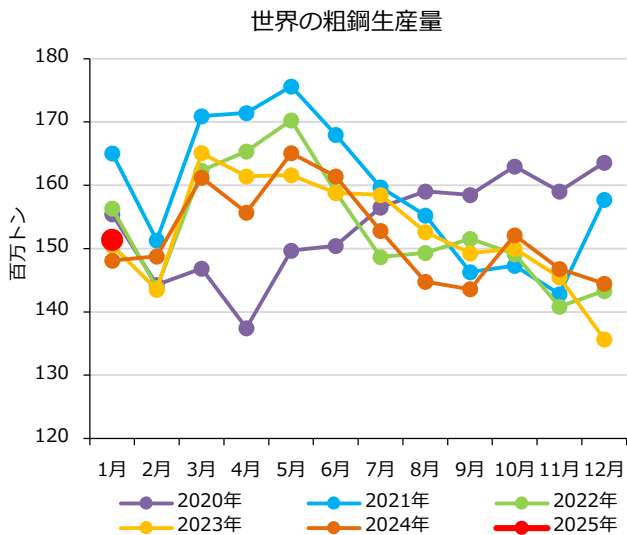
- ・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）の発表による12月の欧州域外からの原料炭輸入量は、前年同月比▲21.1%、前月比▲40.9%の170万トンに大幅減少し、2022年5月以来の低水準に落ち込んだ。
- ・ 2024暦年でのEU域外からの原料炭輸入量は前年比▲6.6%の2,912万トンに減少した。輸入元は米国1,328万トン（構成比45.6%）および豪州1,258万トン（同43.2%）を主体とし、次いでカナダ176万トン（同6.0%）、モザンビーク48万トン（同1.7%）、カザフスタン41万トン（同1.4%）の順。多くの生産国からの輸入量が減少する中、米国は前年比+3.0%、モザンビークは同+9.5%と増加した。前年に8万トンの輸入があった南アフリカはゼロとなった。



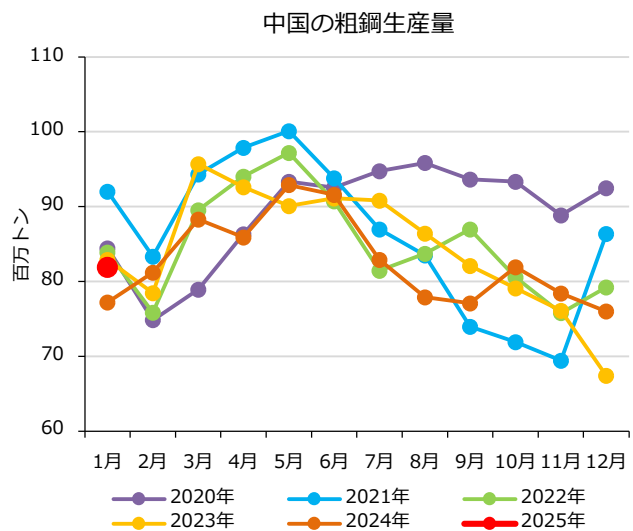
出所：QLD州各港湾の月次貿易報告



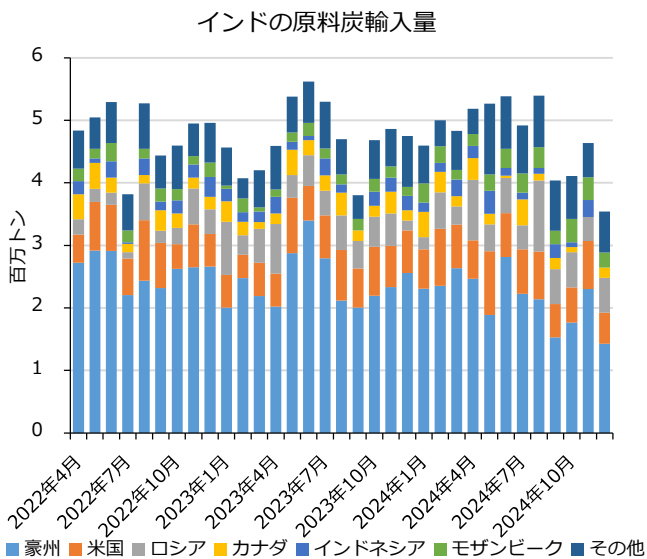
出所：Gladstone港の月次貿易報告



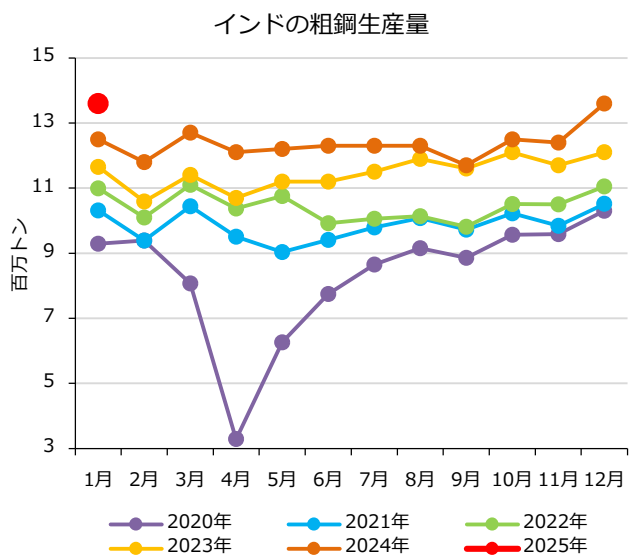
出所：世界鉄鋼協会



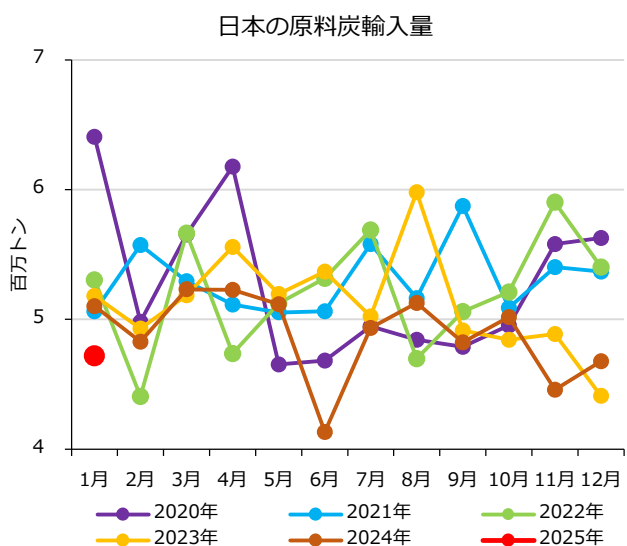
出所：世界鉄鋼協会



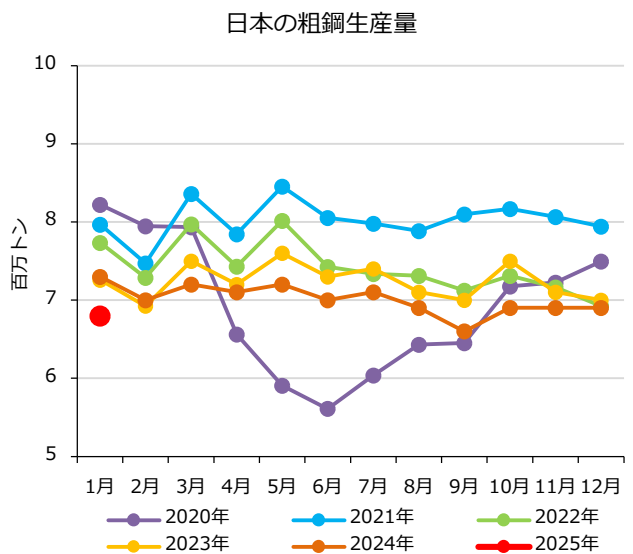
出所：インド商工省貿易統計



出所：世界鉄鋼協会

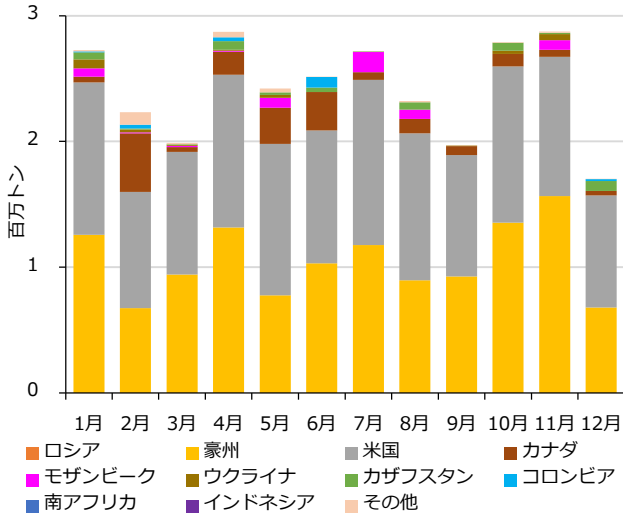


出所：財務省貿易統計



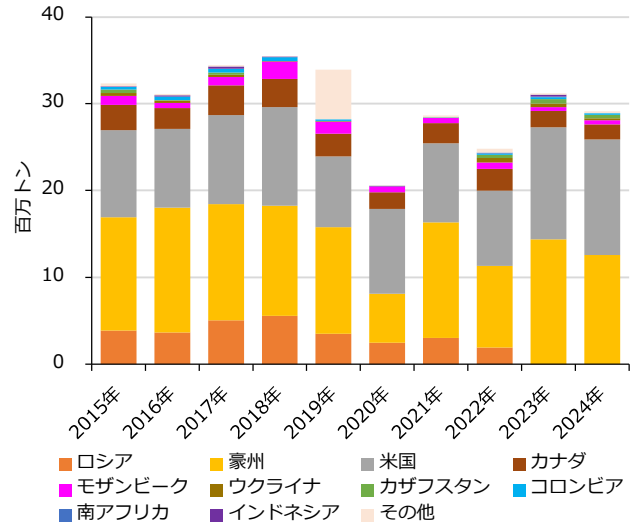
出所：日本鉄鋼連盟

EUの原料炭輸入量(2024年の月別推移)



出所：欧州連合統計局

EUの原料炭輸入量(年別)



出所：欧州連合統計局

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料を引用等する場合には、あらかじめ独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構から許可を受けてください。